



生活ルールを守り，非認知スキルを育てる

園長 太田 伸男

我が国の幼児教育では、遊びを通してやる気や思いやり、我慢する力のような学力では測れない能力（非認知スキル）を育てています。幼稚園での取組がさらに効果を上げるためには、家庭との連携が大切になります。進学・進級が1か月あまりに迫ったこの時期に、園や家庭での生活ルールについて見直してみませんか。

非認知スキルの一つである目標を達成する能力のことを、京都大学の森口佑介准教授は「実行機能」と呼んでいます。その育て方について、著書『自分をコントロールする力』の中で次のように述べています。

- 実行機能に悪い影響を与えるものは、ネグレクトなどの虐待であり、体罰であり、親の精神不安定であり、テレビやスマートフォンの長時間視聴であり、睡眠不足である。
- 実行機能の発達に良い影響を与えるものについて、科学的な視点から言えることは、子どものことをしっかりと見つめ、子どもとの関係性を大事にし、安全で安心した生活ができるよう環境を整備する。子どもの力を信じ、親が先回りせず、後ろから支える。しっかりした生活習慣を築かせることである。

テレビやスマートフォン、ゲーム機などのデジタルメディアは、視聴しすぎると睡眠に悪影響があり、親子の交流も減ってしまいます。睡眠不足は、学力不振につながり、精神疾患、情緒不安定、肥満などにも結び付く可能性があります。一方、家庭ならではのルールを家族全員がしっかり守ることは、その様子を見た子どもにルールを守る意識を形成します。それによって、ルールに応じた行動が選択でき、不適切な行動をとらないようになります。



市之瀬幼稚園では、絨毯に上がる時は靴を脱ぐ、脱いだ靴はつま先を外に向けた習慣が付いてきました。1月の正月遊びでは、職員や年長・年中児がお手本を示すことで、年少児も自然とまねをして身に付けました。

ご家庭でも、デジタルメディアの使い方や睡眠時間などの生活習慣について、家庭のルールを確かめてみてください。ルールが確認できたら、家族全員がそのルールをしっかりと守ることが肝心です。「いつまで YouTube 視ているの！」と注意するよりも、大人が時間になったらスマホを切りましょう。

子どもの非認知スキルは、大人の支援で伸びていきます。その力を信じ、園でも家庭でもルールを守るように、今後も連携して育ててまいります。